

1 教員就職指導室とは

本学卒業生かつ校長経験のある“教員就職アドバイザー”が在室し、個別相談や面接指導などを通して教員就職を目指す学生を支援しています。

教員採用試験受験を予定している学部生・大学院生は、早期に来室して、準備を始めましょう。

2 教員就職指導室での支援

■ 支援内容

- (1) 教員就職に関する情報提供や教員になるまでの様々な相談
- (2) 公立・私立学校教員採用試験の対策内容の説明
論文指導、模擬授業指導、面接指導などの支援
- (3) 教員採用試験対策問題集や各種情報誌などの閲覧コーナー
- (4) 教員の求人や教育ボランティア情報の提供（教員就職指導室前の掲示板）
- (5) 「教員就職指導会」の開催（[4次ページ](#)）



指導風景



自主勉強会風景



各種冊子閲覧コーナー



「教員就職指導会」の様子

3 「教員就職指導会」の開催

■ 教員就職指導会

教員就職アドバイザーによる解説の他、本学卒業生である現職校長や教員による最新の教員採用試験の情報提供や教員就職のための具体的な指導を行います。詳細は教職支援センターもしくは教員就職指導室前の掲示板や MyWaseda でお知らせします。

時期	対象	内容
10月	3年生以上	次年度採用試験に臨むためのキックオフとして、管理職等による講演、公立・私立学校採用試験の概要について説明する
12月	3年生以上	実践的なテキストを配布して行う論文指導と、採用試験合格者数名による合格体験談の発表を行う
3月	3年生以上	教職教養試験対策と論文作成の講義演習を行う
5月	新4年生以上	学校現場で活躍している現職若手教員によるパネルディスカッションを行う
8月上旬	教員採用試験 1次合格者	早期に採用試験二次試験が実施される県への対策として、個人面接、模擬授業、集団面接・討論といった実践的な指導を行う
8月中下旬	教員採用試験 1次合格者	東京都等の採用試験二次試験「直前」対策として個人面接、英語実技、模擬授業、集団討論等の指導を行う

■ 小学校教員資格認定試験体験発表会

時期	対象	内容
2～3月	2年生以上	小学校免許取得の認定試験（文科省 web ページ [http://www.mext.go.jp/]）による取得を目指す学生を対象に、受験者が体験談を語る

4 開室について

- 場所：早稲田キャンパス 14号館 202号室
- Tel：03-3203-0921
- 開室時間：教職支援センター Web ページ参照

! 夏季休業期間・冬季休業期間中の土曜日は閉室。年末年始の一斉休業期間、その他大学が定める休業日以外は原則として開室します。8月の開室スケジュール、その他開室時間の変更等については、教員就職指導室前の掲示板及び MyWaseda 等にて適宜お知らせします。

1 公立学校教員採用試験について

公立学校の教員になるためには、採用を希望する都道府県・政令指定都市の教育委員会が実施する教員採用試験に合格しなければなりません。

■ 試験内容

一次試験や二次試験の内容は自治体によって異なりますが、主な内容は次のようなものです。

- (1) 筆記試験（専門教養・教職教養・一般教養・論文など）
- (2) 実技試験（小学校、理科・英語・音楽・美術・保健体育・技術・家庭など）
- (3) 面接試験（個人面接・集団面接・集団討論・模擬授業・場面指導など）
- (4) 適性検査（MMPI・MINI124 性格検査・Y-G 性格検査など）

2 自分で行う対策

以下の項目は自分で計画を立て、独学で準備することが必要です。

■ 教職教養・一般教養

受験先の過去の出題傾向を参考にして、学習計画を立ててください。教職教養は教育原理、教育心理、教育法規、教育史、教育時事などの分野で構成されています。一般教養は教員として、また一般社会人として身に付けておくべき内容が出題されています。

■ 専門教養

自分の専門とする教科の問題です。受験先の過去の出題傾向をしっかりと分析して臨むことが重要です。かなり高度な内容が出題されることもあります。また、この専門科目で、教員としての専門性を試されますので、力を入れて準備をしてください。小学校の場合は全科ですから幅広く勉強する必要があります。学習指導要領からも出題されますので、よく読み込んでおくことが肝要です。

3 教員就職指導室で受けられる対策

以下の項目は指導室のサポートを受けながら準備することが可能です

■ 論文指導

文字数や論述の時間はいろいろですが、多くの自治体や私立学校の採用試験で論文試験が課されています。全国的にみると、文字数は800字から1000字程度で、試験時間は60分くらいが平均的です。教員採用試験の合否については、受験科目ごとに最低基準を設け、その基準を下回る科目があると他がどんなに優れていても不合格にする方法を採用しており、最低基準を公表している自治体もあります。論文が基準に達しない場合、教職教養や専門教養がどんなに優れていても不合格になります。合格するためには優れた論文を作成することが必要です。そのためには、学習指導要領、中央教育審議会の答申及び各自治体の教育行政施策・教育振興計画等に目を通しておくことが大切です。

教員就職指導室ではオリジナルの対策テキストを配布しています。このテキストを熟読して、過去の問題を実際に論述してみてください。それを、指導室等で添削してもらい、書き直して合格答案を作成します。最後は自分で予想した論文課題を制限時間内で、手書きで書いてみましょう。

■ 面接指導

個人面接、集団面接のいずれも受験者の知識を問うだけではなく、学校現場で発生するあらゆる課題への対応力や児童・生徒への愛情や責任感、児童・生徒理解力、集団指導力、授業力など教員としての適性や人間性が試されます。面接の内容として、集団討論や場面指導、ロールプレイングなどの多様な方法も行われています。

受験先の過去問題などを調べて、自分なりの答えをまとめた「面接ノートづくり」を勧めています。そして、借り物ではないしっかりした自分の意見が述べられるように万全の準備をしてください。また、面接は練習を重ねることによって、落ち着いて自らの考えを述べるができるようになるものです。数多く実践練習を積んでください。

■ 模擬授業・指導案作成・単元指導計画作成などの指導

事前に学習指導案を作成し提出して個人面接の中で模擬授業を実施するところ、試験会場で指定の単元の指導案を作成して模擬授業をするところ、また東京都のように、1時間の学習指導案ではなく単元全体の指導計画を提出するところなど、受験先によってさまざまです。

自分の受験先が何を求めているかを把握して指導案の作成や模擬授業の準備をします。教員就職指導室では、模擬授業をアドバイザーが見て指導・助言したり、受験生同士が授業を見合ってお互いに感想や意見を言い合ったりしてレベルアップを図っています。やはり模擬授業は、回数を重ねることによってコツもつかめてきますし慣れてもきますので、積極的に参加してください。

学習指導案、単元指導計画の作成についてはぜひ教員就職指導室に相談してください。観点別評価規準を踏まえた学習指導案の作成方法などの資料も取り揃えてあります。

4 大学推薦制度

■ 大学推薦とは

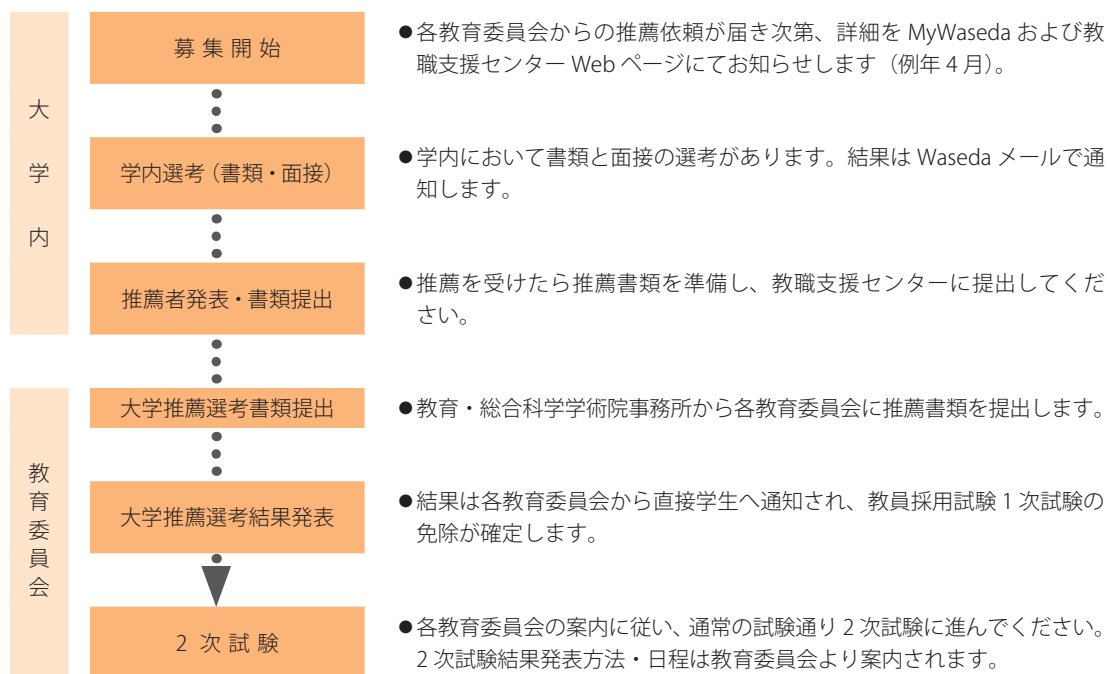
各教育委員会より各大学に教員採用試験の1次選考免除(または、その一部の免除)の推薦枠が与えられ、推薦者を大学内で選考し、さらに教育委員会での試験を通して決定します。

※推薦者は自己の都合で受験を取り止めたり、合格後に就職を辞退することはできません。推薦は大学と各教育委員会との信頼関係により成立していることを肝に命じて申請する必要があります。

■ 過去の推薦枠の状況(参考)

- (1) 推薦依頼のあった教育委員会 ※推薦状況は毎年変わります。
東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市、千葉県・千葉市、埼玉県、京都府、京都市、大阪府、大阪市、堺市、豊能地区(大阪)、神戸市、滋賀県
- (2) 校種・教科
小学校、特別支援学校、中学校(国語・社会・数学・理科・英語・保体)、高校(国語・数学・理科・英語・保体・商業)
- (3) 人数
各枠1~2名が多い

■ 募集からの流れ



■ その他

教育委員会によっては、教職大学院(教育学研究科(高度教職実践専攻))の学生を対象に特別選考試験が実施され、教員採用試験の1次試験が免除されます。

本学教育学研究科(高度教職実践専攻)の入学試験説明会・相談会で詳細を説明します。

(☞早稲田大学教教育学研究科(高度教職実践専攻)webページ[<https://www.waseda.jp/fedu/gted/>])

I	免許状とは
II	取得要件
III	履修方法 科目一覧・
IV	科目登録 成績
V	介護等体験
VI	教育実習
VII	免許状申請
VIII	教員就職
IX	その他

私立学校への就職

1 私立学校教員採用試験について

私立学校は学校ごとに募集・試験を行っていますので、私立学校の教員になるためには、各学校の実施する採用試験に合格する必要があります。教員就職指導室前の掲示板やキャリアセンターの求人情報から募集情報を入手してください。各学校の web ページはもとより、(一財)私学教育研究所などの私立教員の募集に関する web ページから情報を得る方法もあります。また、私学教員適性検査(※)を受けることをお勧めします。

※私学教員適性検査とは

東京都・静岡県・愛知県・兵庫県・広島県・福岡県・長崎県の私学協会では、毎年同一試験日、同一問題で「私学教員適性検査」を8月下旬に実施しています。(群馬県などは独自の適性検査を実施)この適性検査は、採用の可否を決めるものではなく、各私立学校が教員を採用する際の参考資料とするものである。私学協会は適性検査実施後、検査結果を含めた受検者名簿を作成し、前年度3年生の受検者一覧を6月に、当該年度採用対象者は10月に各私立学校の校長がインターネットで閲覧できるように URL 等の情報および優先的な採用を希望する旨の要望書を送付します。各私立学校は、この名簿の中から採用候補者を選び、直接本人に連絡を取って面接などを行うこととなります。詳細は各都県の私学協会に問い合わせてください。

■ 試験内容

私立学校の教員採用試験では、多くの場合1次試験は書類審査です。履歴書はしっかり書きましょう。添付の写真にも注意が必要です。2次試験以降に、面接や模擬授業があります。筆記試験を行う私立学校もありますが、私学教員適性検査を活用する学校は、書類試験・面接・模擬授業等が中心となります。面接が、教科面接→校長面接→理事長面接と段階的に複数回ある学校もあります。

2 自分で行う対策

■ 専門教養・教職教養

各学校が行う筆記試験については、過去の問題を公表している学校はほとんどありません。大学入試レベルの比較的難しい問題の出題が多いので、大学での専門学習を中心に各校種・教科の教科書・資料集などをじっくり研究しておくことが大切です。私学教員適性検査の対策については、東京私立中学高等学校協会から過去の問題集が販売されていますので、そこから出題傾向を把握してください。

3 教員就職指導室で受けられる対策

公立学校における教員就職と同様のサポートが受けられます。

■ 論文指導

私立学校は建学の精神に基づく私学独自の特色ある教育を実現するため、受験者がその学校の教育を推進できる資質能力・情熱・適応力があるかどうかを見ようとします。受験する学校の建学の精神や校訓、教育活動の特色等をよく調べて論文に反映できるようにしておくことが大切です。

■ 面接指導

面接は上記のように段階的に複数回行われますので、その段階に応じた準備が必要です。建学の精神や生徒の状況・進路実践等からその学校の教師にふさわしいかどうか、貢献が期待できるかどうかを評価されます。

■ 模擬授業指導

事前に課題が与えられていて学習指導案を提出させ授業を行わせる場合や、当日その場で課題が与えられ、一定時間指導案を考えさせてから授業を行う場合等があります。教科面接と関連付けて行います。

本年度も教員採用試験に多くの本学学生が合格しました。そのうちの一部ですが、合格体験談を掲載しますので試験の具体的な勉強法など、今後の参考にしてください。

教育学部：塚越 麻友美

①なぜ教員を目指したか？

中学3年生の時、いつも親身になってくださる担任の先生に出会ったことで、教員という職業に憧れを持ちました。高校に入学してからも多くの温かい先生方に恵まれて、本格的に教員を目指すようになりました。

もともと国語が好きだったことに加えて、国語科の先生の温もりと芯のある言葉に何度も励まされ、助けられたので、私も言葉を以て生徒の力になりたいと思い、国語科を選びました。

②採用試験に臨むにあたって必要なこと

少しでも気になることは大学4年間のうちに全て経験してみるのが良いと思います。塾講師のアルバイトや学習支援のボランティアで生徒たちと接した経験は教育実習に活かれますし、採用試験の面接でも話の種になります。それだけではなく、自分が教員として何をしたいのか、どうやって生徒と関わっていききたいのかという問いに対して、イメージが持てるようになります。

また、教育関係にとどまらず、部活やサークルに所属して先輩・後輩を含めた多くの人と関係を築いたり、接客のアルバイトなどを経験してみたりするのもとても有益だと思います。

③勉強方法、試験対策などの準備

「早く勉強を始めないと……」という思いはずっとありましたが、実際には日々の授業の課題に精一

杯で、本格的に対策を始められたのは3年生の2月でした。東京都は一般教養の試験がなかったのですが、その分教職教養と専門教養の対策に時間を割くことができました。

教職教養は、問題集を解きながら暗記をし、直前には東京都の過去問題集を何周もして総仕上げをしました。専門教養は古典を中心に勉強しました。古文単語帳や文法書で基礎を確認し、大学受験の時に使用していた問題集で読解問題に多く触れました。協同出版の過去問題集には本文の現代語訳が載っていなかったため、大学図書館で注釈本を探して復習を行っていました。

論文は1週間に1回くらいのペースで書き、指導室の先生方に添削していただきました。自分1人ではうまく表現できなかったことを、先生方の力をお借りしながら言語化していくことで、次第に納得のいく論文が書けるようになりました。

2次試験の集団討論と個人面接の練習も、指導室の先生方に大変お世話になりました。また、同じ目標を持って努力している仲間たちと出会うことができ、毎回の練習がとても楽しく充実していました。

④教員採用試験を目指す学生へのメッセージ

教員という職業は、未来ある子どもたちの成長を間近で見守ることができる、とても前向きな仕事だと思います。早稲田で出会った教員を目指す友達は、教育に対して熱意があり、思いやりに溢れた人ばかりでした。教員として働く上では辛いこともあるかと思いますが、そうした時近くに、かつて同じキャンパスで勉強していた同志がいたらきっと心強いららうと思います。目標に向かって最後まで頑張ってください、応援しています！

I
免許状とは

II
取得要件

III
科目一覧・履修方法

IV
科目登録・成績

V
介護等体験

VI
教育実習

VII
免許状申請

VIII
教員就職

IX
その他

教員就職が決まったら

1 進路報告

次年度以降の教員就職支援の有益な資料とさせていただくために、MyWaseda からの進路決定の報告をお願いします。

専任・非常勤にかかわらず、教員採用が決まった方は、進路報告に協力してください。

■対象者

公立学校採用試験二次合格者及び補欠合格者、私立・公立学校の専任教員、非常勤教員、常勤講師採用決定者

■時期

進路が決定次第（11月下旬～翌3月頃）

■方法

- (1) MyWaseda にログイン
- (2) 「学生生活」メニュー、「キャリアコンパス」内の「内定・進路の報告」画面から進路報告

■参考

☞キャリアセンター web ページ [<https://www.waseda.jp/inst/career/>]

2 稲門教育会

■稲門教育会とは

「稲門教育会」は「教育」に関わる校友（卒業生）が所属している稲門会です。

本学では、教員として全国各地で活躍する校友との相互研鑽や交流を図るべく、1976年に「稲門教育会」を結成して活動を展開してきました。また、各都道府県でも教職関係者が稲門会を組織しており、人的交流や研修、情報交換等を行い、教員就職をはじめとする教員養成の課題や後進の育成等にも取り組んでいます。

教員就職後、様々な困難が待ち構えていると思いますが、現場には本学出身の教員が数多く活躍しています。そんな頼れる先輩達と交流を持ち、学ぶことができるのが「稲門教育会」です。

教員就職後、是非、稲門教育会に参加してください。

また、在学中でも各地域の稲門教育会に質問・相談があればご連絡ください。

■ 全国の稲門教育会一覧

都道府県	会名	都道府県	会名
北海道	北海道稲門教育会	岐阜県	岐阜紺碧会
岩手県	岩手県稲門教育会	静岡県	静岡県高等学校教職員稲門会
茨城県	茨城県稲門教職員会	愛知県	愛知県稲門教育会
栃木県	栃木県高等学校等教職稲門会	三重県	三重県高等学校教職員稲門会
群馬県	群馬教職稲門会	大阪府	大阪稲風会
埼玉県	埼玉教育稲門会	兵庫県	兵庫県稲風会
千葉県	千葉県稲門教育会	奈良県	奈良県稲風会
東京都	稲教会(都立学校教職員・都教委関係職員)	岡山県	稲岡会
	稲風会(都内公立中学校管理職・市区教委関係職員)	広島県	広島県稲門教育会
	稲朋会(都内公立小学校管理職)	徳島県	徳島稲門淡交会
神奈川県	神奈川県稲門教職会	高知県	高知県教職員早稲田会
新潟県	新稲会	福岡県	福岡県教職員稲門会
富山県	富山県稲門教育会	佐賀県	佐賀県教職稲門会
石川県	石川教育稲門会	長崎県	長崎県稲門教育会
福井県	福井県教育稲門会	大分県	大分県教職員稲門会
山梨県	高稲会	宮崎県	宮崎県教職稲門会
長野県	長野県教職稲門会		

※「管理職」のみで構成されている会もありますので予めご了承ください。

■ 問合せ先

入会方法等については以下の事務局までご連絡ください。
 稲門教育会事務局 E-mail: edu-tomon@list.waseda.jp

I
免許状とは

II
取得要件

III
科目一覽・履修方法

IV
科目登録成績

V
介護等体験

VI
教育実習

VII
免許状申請

VIII
教員就職

IX
その他